

授 業 概 要(シラバス)

| 科目名 | 時間数 | 授業の目的・内容の概要 | 授業修了時の達成課題(到着目標) | 担当講師 |
|--------------------|-----|---|---|-------|
| 人間の尊厳と理解 | 5 | 人間の尊厳と自立 | 尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。 | 河井 光代 |
| 社会の理解 I | 5 | 介護保険制度 | 介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割を理解し、利用者等に助言できる。 | 河井 光代 |
| 社会の理解 II | 30 | 生活と福祉 社会保障制度 障害者自立支援制度 介護実践に関する諸制度 | 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。 社会保障制度の発達、体系、財政等について基本的な知識を習得している。 障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割を理解し、利用者等に助言できる。 成年後見制度、生活保護制度、保険医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。 | 河井 光代 |
| 介護の基本 I | 10 | 介護福祉士制度 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 介護福祉士の倫理 | 介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲、義務等を理解している。 個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度を理解し、倫理を遵守している。 | 河井 光代 |
| 介護の基本 II | 20 | 介護を必要とする人の生活の理解と支援 介護実践における連携 介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護福祉士の安全 | 介護を必要とする高齢者や障害者の生活を理解し、ニーズや支援の課題を理解している。 チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を修得している。 介護福祉士の心身の健康管理や労働に関する知識を修得している。 介護福祉士の安全に関する知識を修得している。 | 河井 光代 |
| コミュニケーション技術 | 20 | 介護におけるコミュニケーション技術 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 介護におけるチームのコミュニケーション | 利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。 援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。 | 河井 光代 |
| 生活支援技術 I | 20 | 生活支援とICF ボディメカニクスの活用 介護技術の基本 環境整備 | 生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。 ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。 介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点及び福祉用具活用等の視点を理解している。 福祉用具活用等の視点を理解している。 | 河井 光代 |
| 生活支援技術 II | 30 | 利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備 | 以下について、利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具の活用、環境整備を行うことができる。 移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護 | 河井 光代 |
| 介護過程 I | 20 | 介護過程の基礎的知識 介護過程の展開 介護過程とチームアプローチ | 介護過程の目的、意義、展開等を理解している。 介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。 チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。 | 河井 光代 |
| 介護過程 II | 25 | 介護過程の展開の実際 | 利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)や観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解し、情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。 | 河井 光代 |
| 介護過程 III (面接授業) | 45 | 介護過程の展開の実際 介護技術の評価 | 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に修得し、活用する分析力・応用力を持っている。 介護技術の原理原則の実践ができ、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を持っている。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身状況等に応じて介護過程を展開し、体系的な介護(アセスメント、介護計画の見直し、実施、モニタリング等)を提供できる。 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる。 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。 | 河井 光代 |

| | | | | |
|--|----|--|--|-----------------|
| 発達と老化の理解 I | 10 | 老化に伴う心の変化と日常生活への影響 老化に伴うからだの変化と日常生活への影響 | 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 | 河井 光代 |
| 発達と老化の理解 II | 20 | 人間の成長・発達 老年期の発達・成熟と心理 高齢者に多い症状・疾病等と留意点 | 発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 老年期の発達課題、心理的な課題(老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。 高齢者に多い症状・疾病等の留意点について理解している。 | 河井 光代 |
| 認知症の理解 I | 10 | 認知症ケアの理念 認知症による生活障害、心理・行動の特徴 認知症の人とのかかわり・支援の基本 | 認知症ケアの取り組みの経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。 | 河井 光代 |
| 認知症の理解 II | 20 | 医学的側面から見た認知症の理解 認知症の人や家族へのかかわり・支援の実際 | 代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | 河井 光代 |
| 障害の理解 I | 10 | 障害福祉の理念 障害による生活障害、心理・行動の特徴 障害児者や家族へのかかわり・支援の基本 | 障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。 障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解していること。 | 河井 光代 |
| 障害の理解 II | 20 | 医学的側面からみた障害の理解 障害児者への支援の実際 | 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。 | 河井 光代 |
| こころとからだのしくみ I | 20 | 介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解 | 介護に関係した身体の構造や機能に関する、基本的な知識を修得している。 | 河井 光代 |
| こころとからだのしくみ II | 60 | 人間の心理 人間の構造と機能 身体の仕組み、心理・認知症機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点 | 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。 | 河井 光代 |
| 医療的ケア | 50 | 医療的ケア実施の基礎 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順) 経管栄養(基礎的知識・実施手順) | 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 | 江郷 和子 大西 八代美 |
| 医療的ケア演習 (面接授業) | 12 | 演習 ・口腔内の喀痰吸引5回 ・鼻腔内の喀痰吸引5回 ・気管カニューレ内部の喀痰吸引5回 ・胃ろう又は腸ろうによる経管栄養5回 ・経鼻経管栄養5回 ・救急蘇生法1回 | 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。 | 江郷 和子 大西 八代美 |
| [使用テキスト・参考文献] 実務者研修テキスト(全8巻) (日本医療企画出版) | | [単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・通信授業は、所定の提出期限までに課題等を提出し、添削指導を受けるものとする。評価方法は添削問題の評価は70点以上。70点未満の場合は再提出とし、合格するまで再提出を繰り返す。 ・面接授業は、スクーリングにて全日程参加して技術を習得する。評価方法は、習得度評価において70点以上を合格とする。 ・医療的ケア演習は、種類に応じてそれぞれの回数以上の演習を実施して手順通りに出来ることが必要。 | | |